

第34回泌尿器科漢方研究会学術集会

会長： 笈善行(香川大学医学部泌尿器科学教室)

会期： 2017/6/17 ～

会場： コクヨホール(東京都)

一般講演Ⅱ

座長： 信州大学 石塚 修

6. 蓄尿症状を訴える男性患者に対する 牛車腎気丸の使用経験

医療法人原三信病院 泌尿器科

○野村 博之、相島 真奈美、武井 実根雄、山口 秋人

【背景・目的】頻尿、尿意切迫感など蓄尿症状を訴える男性患者に対して、一般的には $\alpha 1$ 遮断薬や抗コリン作動薬、最近では $\beta 3$ 作動薬やPDE5阻害薬が投与される。このような西洋医学的な内服治療で患者の満足度が改善しない症例や、抗コリン薬の副作用である口内乾燥や便秘が出現する為に服薬継続が困難な症例をしばしば経験する。そのような症例に対して漢方薬が有効であることがあり、実臨床で牛車腎気丸、八味地黄丸、猪苓湯、清心蓮子飲などがよく用いられている。当院において蓄尿症状を訴える男性患者に対して牛車腎気丸を投与した症例を対象にその効果について検討したので報告する。

【対象と方法】当院において2014年4月から2015年3月までに蓄尿症状を訴える男性患者で牛車腎気丸が投与された患者のうち、主要評価項目、副次評価項目が確認できた37例を対象に後方視的に検討した。主要評価項目は、国際前立腺症状スコア（以下IPSS）、QOLスコア、過活動膀胱症状スコア（以下OABSS）とし、副次評価項目は、尿流量測定、尿流動態検査とした。投与前と比較し、投与後3か月での有効性を検討した。

【結果】膀胱出口部閉塞に対する手術後の患者が33例、Normal detrusor が18例、Weak detrusor が19例、Detrusor overactivity が16例で確認された。平均年齢は71.3歳、平均前立腺容積が35.3 mlであった。投与前後の各種パラメーターは、IPSS-total が16.9から7.8、IPSS-storage が7.1から4.4、IPSS-voiding が9.8から3.4、QOLスコアが4.5から2.2、OABSS-3（尿意切迫感）が2.1から0.8へ改善した。尿流量測定においても最大尿流量（Qmax；ml/s）が9.4から16.5、残尿量（PVR；ml）が92.1 mlから34.4 mlへ改善した。

【結論】蓄尿症状を訴える男性患者に対する牛車腎気丸の投与は、自覚所見（蓄尿症状・排尿症状）、他覚所見ともに改善が確認され、有効な治療選択肢である可能性が示唆された。